東洋大学図書館ニュース

KOΣMOΣ

Vol. 9, No. 2 (No.27) 1974. 11. 5

図書館利用調査　2
本学に学んだ人々
—2—葛西善蔵　3
アーモスト大学の
フロスト図書館の
ことなど　6
図書館運営委員会
審議要約　7
東洋大学図書館
業務報告（昭48）

古いファンタジー

本　間　　仁

関東大震災の前，私はまだ中学生で，間もなく大変なことが起るとも知らず，高校の受験準備を適当に楽しんでいた。その頃神田の駿河台下にもと中西やと言った丸善の支店があった。今と違って外国のものなど殆ど手にすることのできなかった私たちにとって，丸善に行って洋書というものを眺めたり，手にしたりすることはファンタスティックな楽しみであった。もちろん洋書と言っても高価なものではなく，当時一冊一円で売っていたエヴリマンスライブラリやコリンス絵入り文庫であって，売場の中央にドイツ語のレクラム文庫などと一所に沢山置いてあった。そこで少し小遣がたまると日曜日などに出かけるのである。袴をはき，下駄ばきで，谷中初音町の家から桜木町に出て上野公園を縦断し，広小路，黒門町，万世橋，小川町を通って駿河台下まで歩いて行くのが，当時は別に遠いとは感じなかった。もとより中学生のこと，まして英語が得意というわけでもないので，いくらも予備知識はなく，こうして買ったものはデヴィッドコッパフィルドなどデイッケンスを数冊，シャーロットブロンテにオースティンと言った所であった。

私の家は震災にも焼け残ったので，このささやかなコレクションも無事であったし，丸善も間もなく復活したので，私の神田訪問も暫く続いたが，高校，大学と進むうちに，昭和の初めに円本時代という一ときがあって，大ていの小説が飜訳で手軽に読めるようになった。こうして私のコレクションも何時しか忘れられて，本箱から次第に消えてしまった。

1963年にロンドンで学会があった折に，会の後の旅行に加わって東イングランドをひとまわりした。コーヒー休みのあったヤーマスのあるクラブの一室に，デイッケンスの小説の中の情景を描いた数枚の版画が壁にかかっていて，ふと40年前のファンタジーがよみがえった。少年デヴィッドコッパフィルドが乳母ペゴティの奇妙な家を訪ねたのがこのヤーマスだったのである。

（工学部長）

図書館利用者調査

図書館では，8月18日(水)から9月24日(火)までの期間午後5時から9時30分までの時間帯における時間別閲覧室利用者数の調査を実施した。

今回の調査は，夜間における図書館利用の動向を利用者数の観点に限定して把握し，この時間帯における利用者サービスの改善を検討する基礎資料を得るためおこなったものである。

この調査は利用者の閲覧に影響を及ぼすことのないようおこない，入館者の全体を調査対象とし，男女，昼夜，学部などの区別をせず私ども数人が自ら調査をおこなう他計主義の立場で実施した。

今回は図書館の業務との関係もあって，夏期休暇終了直後におこなったが，調査時間は講義時間と密接な関係があることを予測し，授業時間割表を基準として，5時，6時，7時30分，8時，8時30分，9時，9時30分の各時間に設定した。

調査結果をみると，4階の第4第5閲覧室においては，6時に利用者が30人前後となる。又全体では8時30分の時点では，利用者総数が急激に減っている。この同じ現象が土曜日の7時から7時30分にもみられた。

これを閲覧室別にみると，第1閲覧室の場合，5時から6時に利用者が減る。これは5時50分で昼間部授業が終了することと，6時から夜間部授業が開始するためと考えられる。6時から8時においては比較的少なく減っておりほぼ安定している。しかし8時から8時30分の間に急激に減少している。これは夜間部3時限の授業が開始するためと考えられる。

第2第3閲覧室においてもほぼ第1閲覧室と同じ状態である。

第4第5閲覧室においては，4階という階層条件が考えられ，3階の8時30分の現象が7時30分にうかがわれる。

参考雑誌室の場合は，大変複雑な利用がおこなわれており，休み時間を基準として増減している。これは参考雑誌室が2階という階層条件と利用しやすい雰囲気があるためと思われる。

以上の結果を一覧表化してみると下表のようになる。

なお閲覧室の利用状況とは別に，カウンターでの取扱い件数の調査も行なった。

以上のような調査結果から，4階閲覧室利用者総数が6時において30人前後であること，8時30分になると全閲覧室の利用者総数が40人前後であること，この利用状況に応じた私ども閲覧係のサービス体制が考えられないだろうか。たとえば，3階4階の閲覧室利用を8時30分で停止し，それ以降閉館までの閲覧室利用は2階参考室を集中使用する，といった方式が考えられないだろうか。これは全館的な管理業務の労力を2階に集中することによって，より質の高い，よりきめの細かいサービスができるのではないか。

これだけの調査から，このような閲覧利用方式を決定することは非常に危険なことである。したがって今後は，調査時期においても図書館利用の

調査時間	5:00		6:00			7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30
授業時間	Ⅰ部5限(5:50		6:00)	Ⅰ部1限(7:10		7:15)	Ⅱ部2限(8:25		8:30)	Ⅱ部3限	
第1閲覧室	37		34				25	22	13	8	
第2閲覧室	33		16				12	11	3	1	
第3閲覧室	26		12				27	24	5	2	
3階小計	96		62				64	57	21	11	
第4閲覧室	34		20				7	6	3	0	
第5閲覧室	8		8				5	2	3	2	
4階小計	42		28				12	8	6	2	
参考・雑誌室	47	36	21	36	36		29	31	13	11	
総合計	185		111				105	96	40	24	
カウンター	44	58		38	25	8	13	32	12	2	

安定した正常時，試験期など変化の多い異常時にもおこない，利用者側の意向を知る調査をさまざまなかたちで実施し，その分析検討することが必要と考えられる。

近いうちに，この問題をテーマにアンケート調査を実施したいと考え，準備中である。そのおりには，利用者の皆さんのご協力をお願いいたします。

（閲覧係・文責村山）

《本学に学んだ人々》—②—

葛西善蔵

大森澄雄

葛西善蔵がどういう理由でわが東洋大学に入ってきたのか，詳しい事情はわからない。ただ当時の本学の学内事情は，葛西のような高等学校・専門学校に入るための基礎学歴をもたぬ者にとっては，好都合であったようである。つまり，まだ哲学館と称していた明治35年12月13日の，教育部第一科の卒業試験のある学生の倫理学の答案の中に，国体の精華を損う不都合な答案があったという理由で，文部省に中等学校教員の無試験検定資格を剥奪された後で，このために正規の入学資格をもつ学生の志願が激減した本学では，経営政策上無資格者の入学をも許可し，一年の講習期間を経て正規の課程に進ませるという方法が講じられていたからである。この事件が世にいう哲学館事件である。

学籍簿によると，葛西の在学期間は約六カ月間で，明治38年8月28日に大学部第二科普通講習科に入学を許可され，翌年3月7日には無届欠席の理由で除名になっている。なお葛西入学時の学校の名称は哲学館大学であった。

講習科というのは，いちおう表向きは中学三年ないしは四年修了を入学資格としていたようだが，かならずしも厳密な条件ではなかったようである。葛西の学籍簿には，本学入学前の学歴として高等科三年終了後青森県立第一中学校に二年在籍したことになっている。ここで問題になることは，中学二年終了か三年終了かの問題よりもむしろ，この学歴がまったくのウソで，詐称だということである。しかし，このような詐称の許された事実をとおして，当時の本学の経営上危機を，ほうふつとして思い浮べることができるように思われる。

本学在学中の友人には佐藤栄七，八田健一，関本素康といった人たちがいた。佐藤，八田の二人は正規の入学資格をもたない学生であったが，佐藤は葛西を徳田秋声のところへ連れていった人であり，八田は葛西の一時愛読した国木田独歩の作品をすすめた人である。また関本は，葛西の文学の底にある禅に彼を近づけた人である。この三人の人たちとの出会いは，葛西の生涯にとって，その方向をも決定した大きな出会いであったということができる。

葛西の本学在学期間は，学籍簿の上では上記のように明治38年8月から39年3月にかけての約六カ月間であるが，佐藤が葛西を知ったのは明治39年の初夏のある日の，講義の終った廊下においてであったということである。つまり葛西は，除名になってからもなお本学に出入りしていたことになる。また佐藤に送った葛西の書簡では，三回にわたって本学に在学したことになっている。このように，学籍簿と佐藤の記憶や書簡に記載されている事実の間には，いくらかちがいがある。しかし，いまとなってはいずれが正しいか確かめようもないが，あまり講義に出席したことのなかった彼が，特によろこんで受講したのは，井上円了先生の実践倫理であったといわれている。因みに葛西は，先生の追悼文集に「超越された方」という一文を草している。

（短期大学講師）

× × × × ×

本館所蔵・葛西善蔵の作品と論集

作　品

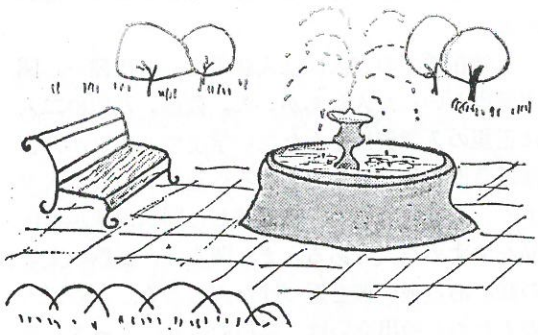
1. 葛西善蔵全集　全6巻（文泉堂書店）
913.6：KZ

その他，各種日本文学全集に作品あり。

論　集

1. 大森澄雄　葛西善蔵の研究（桜楓社，昭和45）
913.6：OS—4
2. 谷崎精二　葛西善蔵と広津和郎（春秋社，昭和47）
913.6：TS—6
3. 津川武一　葛西善蔵その文学と風土（津軽書房，昭和48）
913.6：TT—4

ぷらざ で りぶろ



原ひろ子・我妻洋共著

しつけ（ふぉるく叢書Ⅰ）

（弘文堂　昭和49年）380.8：F

「しつけ」はしつけられる立場からにしろあるいは親としてしつける立場からにしろ，だれもが経験することである。このしつけは文化によって方法も，しつけ態度もちがっており，それが国民性にも影響すると考えられている。その意味で性格の形成という点からも比較文化という点からも，また，いかにしつけたらよいのかという教育的視点からも興味ある題材である。

本書は民俗学，心理学，文化人類学の広い視点からしつけにとりくんでおり，幅広く展開される論は，読んでいて大変に面白かった。

全体の構成は四章からなっており，Ⅰは「しつけ」と日本民俗学と題され，日本人の児童観やエジコの分野と性格，群れの教育，笑いの教育などが民俗学の蓄積からとかれている。Ⅱはアメリカ人による日本の育児様式の研究，Ⅲは日本のしつけ，Ⅳは理論的考察となっている。

本書でははっきりと構造化しているわけではないが，日本のしつけというのは，一方の柱として子どもは神様という性善説的な児童観があり，もう一方の柱には集団のなかで協調して生活していくという考え方があって，この二つが具体的なしつけの内容を作っているようである。それは集団のなかでの適応を重んじる群れの教育であったり，あるいは人に笑われないようにするという他者を規準にして行動するという笑いの教育となってあらわれる。これらが具体的に主として民俗学にもとづいて説明されている。とくに興味をひいたのは，私たちが通常よく使う「気にくわない」とか「ムシが好かない」ということが，個人のなかにその人でない「気」とか「ムシ」とかを作ることによって集団生活にマイナスにならない状況を作ったという点である。

（文学部教育学科講師・神田道子）

W. T. Cathey 著

"Optical Information Processing and Holography"

（John Wiley & Sons. 1974）

レーザは電子技術の所産であり，光の位相情報を，光の干渉によって強弱の分布に変換記録し，波面の形で再生する写真技術である。ホログラフィはレーザなしでは不可能である。

光の波動的現象，結像作用や光結合などの機能を利用した情報処理は光情報処理と呼ばれ，画像情報処理の分野では，電子計算機による時系列1次元的処理と相補的な技術として注目され，著しい発展を遂げている。光情報処理技術は，光学，電子工学や情報工学などの学問を基礎とした境界領域に成り立つだけに広い予備知識を必要とし，まとまった成書は少ない。

本書の前半では光情報処理に必要な物理的ならびに数学的な準備とし，まず波動の伝播，回折について説明し，次にフーリェ変換と特殊関数について述べている。続いて波面の記録，再生および変調，コヒーレンスの概念の説明を与え，さらに結像系，フーリェ変換光学系の構成法，光波の記録媒体および空間変調素子の特性について記述している。後半では，光情報処理の最大の特徴である空間的な2次元情報の即時並列処理を中心として，空間フィルタリング，光波・マイクロ波・超音波による各ホログラムとその特性について述べ，計算機によるホログラムやキノホームについても論じている。その応用については，パターン認識，干渉計，種々のディスプレイや情報検索メモリの問題を取上げている。さらにX線ホログラムやホログラフィック顕微鏡の生物学・医学への応用の可能性，ホログラムの帯域圧縮と3次元テレビジョンの問題にも言及している。

以上のように本書は，論理的厳密さに欠ける点もあるが，光学的アナログ情報処理のほぼ全般にわたって，図・写真を豊富に用いて平易に書かれ

ており，参考文献も比較的そろっている点で，格好の入門書といえるだろう。

本書とほぼ同じ内容を持った和文成書としては桜井健二郎他〝光情報処理〟電気試験所調査報告第168号（1970），辻内順平・村田和美編〝光学情報処理〟朝倉書店（1974）がある。また電子計算機を主とした画像処理への入門書としては A. Rosenfeld: Picture Processing by Computer Academic Press（1969）（邦訳あり）を参考にすればよいだろう。なお本書には光学的ディジタル情報処理についての記述はないが，この処理には，光集積回路と密接な関係があり，現在この研究が盛んに行なわれている。この分野に興味を持たれる人は，成書がないので，関係の論文に直接当たる以外になかろう。

（工学部電気工学科講師・青柳宣生）

参考図書の解題

—経営学関係—

(1)新版体系経営学辞典

ダイヤモンド社（335.03：T：2）

現代における経営学の発展は非常に急速であり，多角的である。

従って経営学辞典もややもすれば単なる断片的な知識を羅列したものになりがちであるが，そのような欠点をカバーし，内外経営学の成果を総合的・体系的に整理している本書は本邦初の体系的経営学辞典であるといえるだろう。

内容については，抽象的・形式的な体系・表現を避ける一方，経営問題及び経営学に関する研究・調査に役立つよう配慮されている。

即ち，利用者の多様な用途を考慮して，豊富な付録が付されている点が本辞典の重要な特色となっている。

Ⅰ）主要経営学者　Ⅱ）経営学関係略語

Ⅲ）経営学関係研究機関　Ⅳ）参考文献

以上の四部からなる付録は他の辞典に類をみない内容のものであり，大項目主義をとる本辞典にあって，小項目辞典の機能をも同時に本辞典に与えるために，和欧合計約一万項目からなる事項索引，約七千名からなる人名索引とともに，この付録が大きな役割を果たしているといえるだろう。

—工学部関係—

(1)化学便覧　丸善（430.36：H）

化学便覧の初版は，昭和27年に出版され，昭和33年に増訂新版が刊行された。それが昭和40年には基礎編と応用編に分かれて増補改訂を行って発行された。

化学便覧は豊富なデータを収録したデータブックであり，基礎化学と工業化学の全般にわたって手軽に要点を知るのに適した百科事典的な内容をもっている。

基礎編：内容としては物理定数と諸単位，同位体，元素と無機化合物の性質，有機化合物の性質，物質の力学的性質，相平衡，熱的性質と化学平衡，化学反応，電気的，磁気的性質，分光学と分子構造X線，γ線，電子線，中性子線，分析化学，生化学と分かれてそれぞれのデーターが収録されている。又付録には，元素と化合物の性質表英語索引が67ページにわたってあり，たいへん索引としては充実していると思う。

応用編（改訂２版）：この応用編は化学工業の急速な進展の為，記述の内容を全面的に改めた。そのためページ数は改訂前より30％も増加している。内容としては25の大きな項目がありその項目ごとに総論があって，それから細かい内容に入っている。付録としての索引も48ページにわたっており図，表も豊富にもりこまれていて，かなり充実した参考図書と思われる。

(2)岩波理化学辞典（第３版）

岩波書店（403：I：3）

初版の刊行は昭和10年であり，すでに36年の歴史がある。この辞典は小項目主義の方法により，物理学および化学の事項を中心に，それと関連をもつ数学・天文学・地球物理学（気象学・海洋物理学を含めて）・地質学・鉱物学・工学などの項目および科学者，研究所などについての解説を目的としている。小項目主義の特徴は石原博士が序文にいうごとく〝各項目に対して最も簡単で且つできうる限り適切正確な説明を与える〟というところにある。又英仏独語索引が完備されている。

アーモスト大学のフロスト図書館のことなど

中井　清

アーモストはコネティカット河流域に位置する小さな町である。十九世紀には典型的な清教徒の町として知られ，今ではアメリカ屈指のリベラル・アーツの大学を持つ町として有名だ。私は今年の四月中旬から八月下旬迄，およそ四ケ月余この町に滞在した。アーモスト大学のフロスト図書館に通うためである。

フロスト図書館は新しく，建築後わずか八年ということだったが，この他に，これ迄の図書館や，十九世紀の五十年代に建てられた図書館も残っていた。十九世紀の図書館はあまり大きくない。せいぜい二百名程度の学生を対象に建てられたものであろうか。建築様式に特徴があり，他の建物との見分けは容易であったが，古い本を見る迄それが昔の図書館とは気づかなかった。当時の人が書き残したものを見ると，この図書館は，同じ頃に建てられた詩人ディキンスンの本家や，分家などと一緒に，町の話題をさらったという。ともにその様式が珍しかったかららしい。

新しい図書館は二十世紀の前半に一つ，後半に一つ建てられている。前半のものは，今は本部として使われているため，後半のフロスト図書館との比較はむつかしいが，規模はともに千名から千三百名程度の学生を対象にした建物で，様式の違いを別にすれば，機能の差はほとんどなかったと思われる。採光や空間の処理は，多分，フロスト図書館の方がすぐれている。フロスト図書館の書庫は，読書室，研究室から独立していない。書架の周囲に学生用の机と教員研究室を配し，ところどころに休憩コーナーを置いている。大変使い易い。

新聞・雑誌室は一階にある。そこから，リスの飛び交う芝生が見え，樹の茂るキャンパスの彼方に，遠くホリヨークの連山が霞んで見える。ニュー・イングランドの天候は実に変わり易いが，週に一度か二度，文字通り，wonderful day といえる日が訪れる。空は高く晴れ，どこ迄も，まるで永遠につづくのではないかと思わせる澄明な視界が開け，風は涼しく，町の人々のにぎやかで明るい表情も，そういう日には見られるのだ。そんな日に，新聞を読むのも忘れてホリヨークの連山を眺めながら，ニュー・イングランドの自然の美しさをしみじみと味わうのも，この部屋からである。

図書館のすぐ近くに大学の美術館がある。アッシリアの石彫，十七世紀オランダのタペストリィ，中世ドイツの宴会場とステンド・グラスなどが，その主な展示品であったが，時々展示品が変わることもあり，私は図書館で疲れると，しばしばそこへ足を運んだ。楽しい思い出である。

私が借りていた図書館の二階の部屋から，美しい緑のキャンパスが見え，緑に埋もれた町が見えた。中央に，古い歴史と，かつては高い権威を持った組合派教会の尖塔が，空に向って突き出ていた。教会の裏側には，ディキンスンの本家と分家がある。教会の塔を見ながら，私は時々ディキンスン家三代の人々を思った。アーモスト大学を建てた最大の功労者の一人は，詩人の祖父である。財務担当の理事として，大学の経済的基盤を確立したのは，詩人の父である。また，この大学を訪れる者が等しく讃嘆する美しいキャンパスは，父の後を襲って財務担当理事になった，詩人の兄の努力に負うところが大きいという。ディキンスン家は，実に八十年にわたって，この大学につくしてきたのだが，今それを知る者は殆どいない。大学と詩人は有名になったけれども，大学と彼女を生んだのは，ニュー・イングランドの文化であることを知る者は，どれほどいるのだろうか。教会をつくり，信仰の砦としての大学をつくった文化は，滅んですでに久しく，その文化を支えた人々も今はない。大学は変った。わずかに変らないものがあるとすれば，それは大学のキャンパスとホリヨークの連山だけであるのかも知れない。

（文学部助教授）

平野威馬雄著「伝 円 了」

（草風社　昭和49年）092.81：ＨＩ

この本は，本学の創立者である井上円了先生の，初めての伝記である。

井上円了，一般の人たちにはもうすでに馴じみのうすい人物である。私ども東洋大学関係者でさえ，どんな人であったのか，くわしく語れるものもいなくなっている。そのうえ著者もいっているように，一冊の自伝も，伝記もない。したがって井上円了を知ろうとすると，書庫の貴重書コーナーに並ぶ数百冊の著作を読む以外にないし，その著作も明治の文体で，抵抗なく読める人は少ないであろう。

著者が，なぜ「井上円了」という人物に興味を持たれ，この時期に世に紹介されようとしたのか，その理由は定かではないが，著者が「お化け」（神秘な，不可思議なもの）に強い関心をもつ方であり，この関心が井上円了の「妖怪研究」にとまり，さらにその研究主体の人間性の追求にむかったものと思われる。

いづれにしても，第１章の「井上円了という名のこと」から，第14章の「星の世界」まで，その生涯が年代を追うかたちで記述されながら，それが一貫して井上円了自身の著作と知人たちの文章で構成されるという，非常にユニークな伝記である。これはこの本が井上円了の初めての伝記でもあるために，著者の主観が入り込むのを極力さける配慮があったものと思われる。したがって同じ著者による『くまくす外伝』などより，読みづらいものになっているが，井上円了の人間像を知るには恰好の伝記である。

著者から５冊の寄贈を受け，すでに整理も終って配架されている。この機会に，本学の創立者を知るために，また現在のこの東洋大学を考えるために，ぜひ一読をお願いしたい。

これまで出たこの本の書評ないし紹介はつぎのとおり。

日本読書新聞（９月23日号），毎日新聞（９月30日号），本願寺新報（10月１日号），週刊読売（10月26日号），出版ニュース（10月下旬号）

（図書課・世良民平）

図書館運営委員会審議要約

（昭和49年５月21日，於図書館会議室）

報告事項

①会計監査結果「良好である」。

②５月１日付昇格，人事異動（生野氏用度課より図書館に復帰）

③49年度助成金集約結果について。（明細略）

質問と説明

○教職員貸出ノートについて試験的に実施を決定したが，「従来の方法も希望者には残すということではなかったか」との質問があり，それに対して「図書館では統一的に実施することで了解している。具体的に不都合があれば図書館に提示してほしい」との説明があった。

議　題

①運営委員会の運営について

○委任状はとらず，図書館規則の代理規程を生かして運営する。

○「代理」は当人の所属する教授会及びそれに準ずるものから選出されるものとする。

○議事録は要点筆記，書記は係長があたり，委員の中より署２名人名をつける。

②49年度図書費について

○図書費最終内示（３月19日）額6500万円昨年比19.2％の増，今後具体的な資料を付けて補正を要求する。

○配分について，原案通り決定。（表１）

③蔵書目録の配布について

学内配布は下記のように行う。

○各学科・専攻単位に一部を設置する。

○研究室などで個人的な利用を希望する方には，消耗備品として貸与する。

○個人的に取得を希望する方には，実費頒布。

表１　（単位万円）

文学部	360	各学部共通	570
経済学部	280	図書館	1,700
法学部	280	逐次刊行物	750
社会学部	280	視聴覚	80
経営学部	280	予備費	200
教養課程	280	英米文補助	50
大学院	450	助成金	700
短期大学	240	工学部	1,300

継続購入雑誌目録リストについて

この目録は昭和43年から本館図書館，各研究室等で購入の受け入れ雑誌を収録したものです。雑誌は和文編，欧文編の二部からなり，昭和49年度継続購入目録リストには和雑誌431誌，洋雑誌489誌が収録されています。

現状では各研究室と教員の方々への配布が精一杯のところで学生の皆様にはまだ不便をおかけしていると思います。図書館では図書の蔵書目録が完成した後に，雑誌の総目録を作成したいと願っております。

現在，この目録の配布先，収録対象等が制限されてはいますが図書館カウンター，雑誌コーナーなど必要個所には配布してありますので当面はこの目録リストを御利用下さい。

又，併せてコンテンツサービス（目次複写）に一般的な雑誌約50誌が複写されていますので御利用下さい。

（本館雑誌係）

日　誌（7月～9月）

7月3日～6日　私大図書館協会「夏期研修分科会」（於蓼科山荘，村山・神杉参加）

9日　図書選択委員会―予選図書の選択および各学部共通（学際）予算の執行方針について審議

11日　私大図書館協会「レファレンス分科会」

17日～23日　「私立短大図書館担当者研修会」（於熊本郵便貯金会館，大和田・丸山・丹野参加）

18日～20日　私大図書館協会，第35回総大会・研究会（於駒沢大学図書館，大島館長外5名参加）

23日　白山連絡会
神奈川県立伊勢原高校生，来館

8月2日～7日　帝京大学図書館より3名の方，来館
「東の幽霊と西の悪魔展」（松屋主催，於横浜松屋）に本館より関係資料多数を出品

8月5日　「東洋大学図書館蔵書目録」第二巻（和漢書編）完成，ただちに学内外への配布開始

6日　中央大学図書館より3名の方，来館
和洋女子大学図書館中村課長外2名の方，視聴覚室見学のため来館
事務用書架21連も設置

16日～21日　前記「東の幽霊と西の悪魔展」が浅草松屋でも開催され，本館も協力

27日～29日　私大図書館協会「逐刊分科会夏期合宿研修会」（於農大富士実習分場，板場・山崎参加）

9月5日～7日　分館大掃除

8日～14日　近世史料取扱講習会（於宮城県立図書館，森参加）

11日　分館運営委員会―分館事務室設置の件などについて審議

18日～24日　二部（17時～21時30分）本館利用者数調査を実施

24日　白山連絡会

26日　父兄会岡山支部より5名の方，見学のため来館

30日～10月5日　近世史料取扱講習会（於東京大学図書館，生野参加）
2階に「開架書架」増設

投書箱から

今月はお休みさせていただきます。読書の秋をむかえて，図書館への注文はますます多くなるでしょう。建設的な御意見・御批判をお待ちしております。

（係）

訂　正

前号（Vol. 9, No. 1）6頁左側の記事を一部次のように訂正いたします。

訂正個所	誤	正
上から21行目	storees	stories
〃　22　〃	Idtot	Idiot

東洋大学図書館ニュース　KOΣMOΣ　Vol. 9, No. 2（通巻27号）1974年11月5日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：大島建彦，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel (945) 7314番

東洋大学図書館業務報告（昭和48年度学長報告より抜粋）

〔I〕白　　山

1.　学部別図書館図書費予算及び決算

学　部	予算額	支出額	学　部	予算額	支出額
文学部	4,644,000	4,593,168	図書館関係	16,200,000	16,569,643
経済学部	2,400,000	2,430,799	指定書	1,000,000	926,490
経営学部	3,212,000	3,224,342	学生希望	1,500,000	1,511,844
法学部	3,212,000	3,212,518	逐次刊行物	7,000,000	6,960,061
社会学部	3,232,000	3,240,423	視聴覚	500,000	517,225
教養課程	2,400,000	2,128,892	助成金	19,767,500	19,767,500
短期大学	2,000,000	1,984,150	合計	67,067,500	67,067,055

2.　図書資料受入と整理

イ　年間受入冊数と整理冊数

	年間受入冊数	年間整理冊数	
		図書	AV資料
和書	9,691	5,690	レコード 329 録音テープ 373 スライド 29 フィルム・他 0
洋書	5,642	2,923	
合計	15,333	8,613	731

ロ　雑誌・新聞・年間受入数

	雑誌（種）		新聞（種）	
購入	和	431	和	10
	洋	489	洋	15
寄贈	和	1,323	和	
	洋	50	洋	
合計	2,293		25	

3.　閲覧統計

イ　館内閲覧

月	閉架図書		開架図書		合計	
	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数
4	357	180	568	407	925	587
5	858	435	1,545	1,057	2,403	1,492
6	715	398	1,514	965	2,229	1,363
7	537	258	970	612	1,507	870
8	338	187	669	351	1,007	538
9	723	370	1,525	951	2,248	1,321
10	1,374	708	2,211	1,387	3,585	2,095
11	1,008	519	1,625	1,034	2,633	1,553
12	673	353	1,596	958	2,269	1,311
1	1,178	664	4,403	2,782	5,581	3,446
2 3	1月28日より3月31日迄学内ロックアウトにより閉館					
合計	7,761	4,072	16,626	10,504	24,387	14,576

ロ　館外貸出

月	開館日数	閉架図書		開架図書		指定図書		合計	
		冊数	利用者	冊数	利用者	冊数	利用者	冊数	利用者
4	19	575	396	2,339	1,672	170	147	3,084	2,215
5	22	977	694	4,184	3,249	353	320	5,514	4,263
6	24	918	687	4,768	3,083	346	309	6,032	4,079
7	20	812	501	3,618	2,092	270	186	4,700	2,779
8	23	344	222	706	454	55	45	1,105	721
9	21	762	515	2,571	1,966	247	212	3,580	2,693
10	26	1,174	867	4,879	3,488	420	364	6,473	4,719
11	24	1,060	525	3,628	2,979	329	298	5,017	3,802
12	19	785	533	2,945	1,777	376	308	4,106	2,618
1	20	449	330	2,054	1,715	329	281	2,832	2,326
2 3	1月28日より3月31日迄学内ロック・アウトにより閉館								
合計	218	7,856	5,270	31,692	22,475	2,895	2,470	42,443	30,215

ハ　参考業務統計

質問件数		5,421	利用者数		4,172
内訳	書誌作成	1	内訳	学生	3,922
	文献調査	2,813		教員	69
	文献所在調査	816		職員	86
	事実調査	1,626		学外者	95
	書誌的事項	101			
	その他	64			

4.　蔵書構成

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	未分類	合計
冊数	和	20,664	20,545	20,679	30,280	5,450	4,799	5,481	3,199	4,262	14,981	53,982	184,322
	洋	2,986	6,894	3,915	26,321	2,566	2,810	3,335	527	2,409	8,182	24,654	84,599
合計		23,650	27,439	24,594	56,601	8,016	7,609	8,816	3,726	6,671	23,163	78,636	268,921

〔II〕工学部

1.　年間購入冊数，金額

今期購入高	和書		洋書		逐刊及びその他	合計
	1,520冊	3,305,762円	749冊	5,429,525円	8,160,947円	16,896,234円

2.　貸出冊数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
学生	699	1,847	2,040	1,011	37	995	1,362	1,331	1,278	1,013	926	14	12,553
教職員	95	106	204	84	10	108	248	197	172	75	218	90	1,607

学科別学生貸出冊数	機械	電気	応化	土木	建築	大学院	合計
	3,080	4,075	1,957	1,803	1,216	422	12,553